

「散布の助」で、圃場ごとの防除適期を地図で見える化、立案、実績登録、進捗管理、報告まで一気通貫

基本情報

組織名：株式会社ビジョンテック

担当者名：

最高執行責任者 藤澤博司 氏

使用 API：

- ・ 水稲いもち病診断 API
- ・ 水稲斑点米カメムシ診断 API
- ・ 水稲紋枯病診断 API

開発体制：

社内内製：6 名

(企画・PM/開発/病害虫/実証)

リリース時期：

2026 年 9 月 (正式リリース予定)

解決したかった課題：

- ・ 圃場ごとの防除適期の見える化と、計画から報告までの業務効率化

ドローン農薬散布支援スケジュール



最高執行責任者 藤澤博司 氏

■ アプリケーションの概要

「散布の助 (SANP no SUKE)」は、水稲の病害虫の防除適期を圃場単位で地図上に見える化し、散布スケジュールの立案から実績登録、進捗管理、報告書作成までを一気通貫で行えるクラウドサービスです。ブラウザで動作するためインストール不要で、PC 版とモバイル版を提供。主な利用者は JA・自治体、営農法人、散布事業者です。

■ 開発の背景

ドローンによる農薬散布の受託が急拡大する一方、発生予察情報は地区単位のため、品種や移植日が異なる圃場ごとの散布時期の判断は担当者の経験に頼っていました。紙地図での圃場確認や移動、実績集計・報告書作成の事務負担も大きく、適期防除と業務効率化の両立を目的に開発しました。

■ 開発中に直面した課題

研究段階の予測アルゴリズムは、現場での薬剤選択と噛み合わないという課題がありました。農研機構の研究者に確認しながら、適用できる薬剤は予測した防除適期を、それ以外は薬剤ラベルの使用時期を表示する方針に整理。また、屋外・手袋・短時間という制約に合わせ、モバイルはワンタップ入力に絞り込み、実証地域の事業者の試用を経て改良しました。

■ 本アプリケーションの強み

まずは、防除適期の可視化、計画から報告までの一気通貫な業務管理、インストール不要の高い導入性にあります。また、品種・移植日・気象データを活用して病害虫ごとの防除適期を算出し、複数病害虫の同時防除による散布回数削減と作業効率化を支援します。さらに、親子ユーザ機能やフレンド機能により、個人や団体を横断した共同散布の進捗を一元管理でき、広域的な防除活動や関係者間の連携を円滑に推進できます。加えて、筆ポリゴン、農薬登録情報、気象データなどの公的データ、農研機構委託プロジェクト研究「省力的な IPM を実現する病害虫予報技術の開発」の成果である防除適期予測アルゴリズムを活用し、信頼性の高い防除計画の策定を実現しています。



散布の助 画面イメージ

■ WAGRI と API の利用によるメリット

農研機構の研究成果である防除適期予測のアルゴリズムを API 経由で利用でき、開発期間とコストを大幅に圧縮できました。中小企業でも先端の研究成果を製品に組み込む点は大きな利点です。提供元の異なるデータを共通の作法で取得でき、公的データにより予測の根拠も説明しやすくなりました。

■ リリース後の反響について

令和 6 年度の実証では北海道 (JA) で 260.15ha、滋賀県 (営農法人) で 53.1ha の散布に利用され、紙地図による確認と比べ大幅な作業時間の削減が確認されました。トライアルには JA、NOSAI、営農法人など 30 社以上が参加し、29 都道府県で利用されています。

■ 今後のアップデート

2026 年 9 月の正式版から、水稲以外の作物 (だいち、小麦等) の圃場登録に対応。防除適期予測の他作物への拡大も検討中です。対象病害虫も現在の 3 種に加え、稲こいうじ病などの追加実装を進めています。

■ 担当者からのメッセージ

「散布の助」は、農林水産省の補助事業による実証と農研機構の研究成果があって形にできたサービスです。圃場単位で防除適期が分かるという中核の価値は、WAGRI を通じて研究成果の API を利用できたからこそ実装できました。データを持つ側と現場をつなぐ基盤は、当社にとって大きな力になります。

お問い合わせ先

WAGRI 運営事務局
(農研機構 農業情報研究センター WAGRI 推進室)
sh-wagri@naro.go.jp

WAGRI 公式サイト
<https://wagri.naro.go.jp/>

